

## 現場へ「動く」人を「守る」2期目の実績

### 1. 飲酒運転撲滅条例(議員提案)の制定に尽力

沖縄県での調査をもとに「飲酒運転の減少にはアルコール依存症等の対策が不可欠である」と主張、行政と医療が連携し予防・治療する枠組み(26条等)を条例に明記しました。



福岡県議会は2012年2月22日全国初の罰則付き飲酒運転撲滅条例案を提案し、全会一致で可決した。県議会が政策条例案を議員提案したのは2回目。福岡県粕屋町の事故から一年、被害者ご家族に寄り添いながら、終始一貫、条例制定をリードし医療・予防の視点から数々の提案を盛り込みました。

粕屋町の事故後、飲酒運転撲滅の機運が高まる中、県議会は条例制定へ向け、主要4会派の代表(公明党からは大塚議員)でつくる調整会議を設置し、13回の検討を重ねました。大塚議員は、福岡県内での飲酒運転検挙者(2010年)のうち4人に1人がアルコール依存症の疑いがあるとの調査結果と、沖縄県での視察をもとに「飲酒運転の減少にはアルコール依存症等への対策が必要であり、行政と医療の連携が不可欠である」ことを主張、第26条にアルコール依存症等の治療に実績を持つ専門病院を中心に、職域、地域、医療機関、行政機関等との間に、予防・治療につなげる連携体制の構築を提案し、条例に明記させました。(写真:24年2月23日毎日新聞)

### 2. 重症心身障害児者の家族の負担軽減へ 障がい者団体の会合で議会報告

重症心身障害児者の家族の負担軽減へ実態調査を提案。調査結果をもとに医療的ケア体制を整備する新たな事業が始まりました。

長年在宅で重症心身障がい児・者の介護を続けるご家族の要望を受け23年12月議会で実態調査を提案。県は調査に着手。その結果、重症心身障害児者は県内で約3千人に上り、うち6割超の約2千人が在宅で、「介護者の9割が親で、その約半数が5時間以下の睡眠時間など、心身ともに負担が大きい実態がある」との調査結果をもとに、26年度予算に介護する家族の負担軽減に向けた医療的ケア体制を整備する新たな事業が盛り込まれました。(写真:14年3月8日)



### 3. 障がい者がつくる「まごころ製品」の販売拡大へ

施設で働く障がい者の所得向上の為に、障がい者がつくる「まごころ製品」の販売拡大策を提案、大規模販売会や販路開拓、県HP開設等の支援事業が始まりました。



23年12月議会で、如水庵と障害者施設の協働で製品化したお菓子の事例をもとに、施設で働く障がい者の収入アップについて質問しました。

小川知事は、「障害者の皆さんのが地域で自立した生活を送るためには、施設で働く障害者の収入を向上させることが重要である。このため、「売れる製品」の開発と統一ブランド化や、継続的で安定的な販路の開拓、認知度向上のためのPRなどの取り組みが必要である。「よかもん市場」や大型商業施設、各種イベントにおける販売を拡充していく。」と答弁、26年度から新たな事業が始まりました。（写真：13年10月23日、福岡国際会議場で障がい者施設と企業・団体による製品商談会が初めて開催された）

### 4. 児童生徒のスポーツ障害防止へ

4年前の夏、ある整形外科で、部活動による怪我で多くの児童生徒が手術、入院していました。スポーツによる怪我への知識を持ち、予防することが必要です。

成長期の児童生徒がスポーツで怪我をして断念せざるを得ないことがないよう、部活動の指導者全員がスポーツ障害の基礎知識を習得するとともに、関係機関と連携しスポーツ障害防止のポイントをまとめた資料を作るよう県教育委員会に提案、26度中に完成の予定です。



### 5. 障害者スポーツの強化を推進

これまで障害者スポーツの強化を訴えてきました。26年度から、障害者と健常者が一緒に楽しめる障害者スポーツに対する県民の意識啓発や、身近な地域で活動できる場が設置されます。あわせて障害者のトップアスリートにはクローバープラザを拠点に医科学サポートによる育成強化が始まることなど、障害者スポーツが大きく前進します。

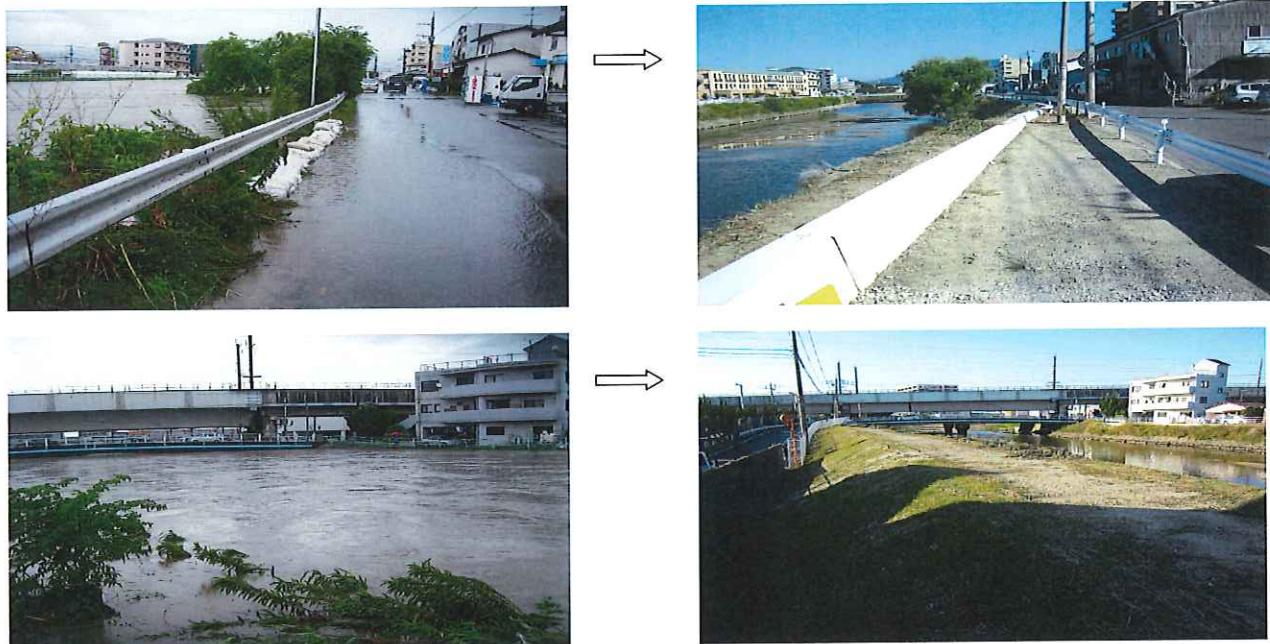
### 6. 学校での食物アレルギーによる事故防止策を提案



食物アレルギーを有する児童生徒が大変多くなっています。個々児童生徒の状況を、医師が起票する「学校生活管理指導表」をもとに全教職員が共通認識するよう指導の徹底をはかるとともに、緊急時のアドレナリン自己注射薬「エピペン」の使い方等の実技を伴った研修会を全ての学校で開催することになりました。

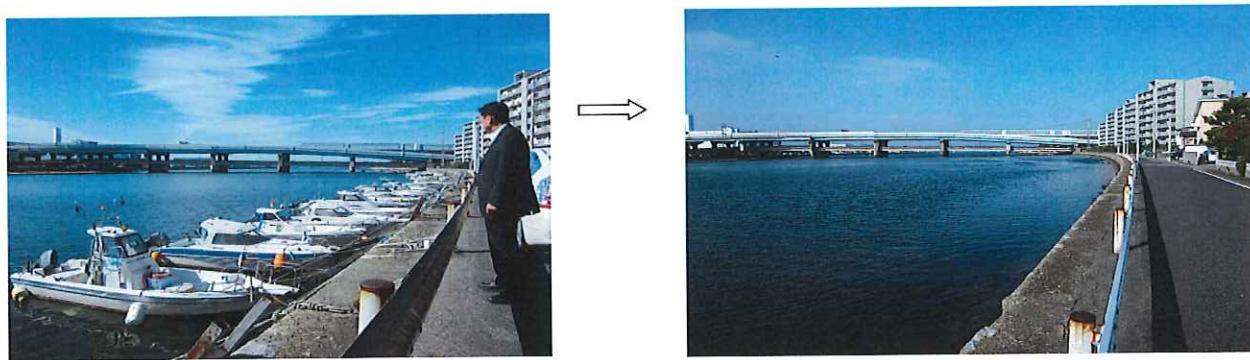
## 7. (防災・減災) 須恵川流域の水害対策

平成 21 年 7 月の豪雨で氾濫した須恵川(福岡市東区)に、緊急対策としてパラペット「簡易堤防」の設置が 24 年 7 月に完了しました。(写真左 21 年 7 月 写真右側 現在の須恵川)



## 8. (防災・減災) 多々良川の不法係留解消へ

名島橋周辺には長年プレジャーボートの不法係留が続いていました。不法係留は、台風や豪雨による護岸崩壊や増水により流された船が川の流れを堰き止め、浸水被害の原因になることも考えられ地域の課題でした。平成 22 年 9 月の議会質問をきっかけに、対策協議会が設置され、解消へ向けた取り組みが完了しました。(写真左: 平成 22 年 9 月当時、写真右: 現在の多々良川 名島橋周辺)



## 9. 若者サポートステーションの訪問支援(アウトリーチ)始まる



本県では、就労、教育、職業訓練を受けていない若者(ニート)を対象に就労など社会的自立を支援する若者サポートステーションを設置している。自宅から外出できない若者への訪問支援(アウトリーチ)が必要不可欠と提案、本県でも訪問支援が始まりました。

## 10. 虐待を受けた児童の医療的ケア(心のケア)強化へ

近年、虐待により心に深い傷を負うなど、医療的ケアが必要な児童が増えており対策の必要性を訴え、平成13年度から本県唯一の情緒障害児短期治療施設として、心のケアが必要な児童を受け入れ、その治療に取り組んできた筑後いずみ園の機能強化を提案しました。知事から筑後いずみ園について、医師の配置充実や医療機関との連携強化による医療体制強化が求められており、このようなニーズに的確に対応していく為、運営の方を含め検討していく、と答弁がありました。



## 11. 右折車両分離方式の信号機設置を推進(交通事故防止策)

近年増加している高齢者の事故は、車の右折時に歩行者との接触事故が多く発生していることから、右折車と歩行者を分離する信号機設置を提案。近年設置が増え、安全対策が進んでいます。(写真:東区千早 御幸町交差点)



信号機←↑の時、右折車は赤、歩行者は青

歩行者は車を気にせずに横断できます。



信号機→の時、右折車は青、歩行者は赤

右折車は対向車、歩行者を気にせず右折できます。

## AED操作法等を学ぶ 福岡県議団

公明党福岡県議団はこのほど、福岡市消防局の救急救命士から、応急手当てに関する講習を受けました【写真】。日本における心臓突然死が年間約6万人に上っています。また、心肺停止に陥った場合、脳は3~4分間で血流停止による損傷を受けるため、応急手当てが早いほど、命が助かる可能性が高くなります。救命現場で更にAEDが活用されるよう、推進してまいります。



発行責任者：福岡県議会議員 大塚勝利

福岡市東区みどりが丘1-8-8 TEL:092-691-7731

県議会控室 TEL:092-643-3805

Eメール: ootsuka\_katsutoshi@yahoo.co.jp

詳しくは**大塚勝利ブログ**で検索